とよおか 農香だより

No.62
2025.12

雪の出石神社（出石町宮内）

●豊岡市長に意見書を提出しました ……………………… 2・3P
●頑張ってます！農地利用最適化推進活動 ……………… 4P
●きばっとんなる人らぁ …………………………………… 5P
●伝統農産物、特産農産物の紹介 ………………………… 6P
●農業者年金で安心・豊かな老後を ……………………… 7P

豊岡市長に意見書を提出しました

令和8年度予算編成に先立ち、10月1日、村田会長をはじめとする役員5名で市長に意見書を提出し、施策について意見交換を行いました。

市長と代表役員

1 遊休農地の発生防止及び解消

農地は、多様な農作物を供給する基盤であるとともに防災や自然環境形成の役割を果たしており、農地利用の最適化と保全が必要です。

市は地域計画策定により決定された守るべき農地の維持が適切に行われるよう指導を徹底されたい。また、守るべき農地から外れた農地についても遊休化を防ぐ対策が必要です。

・遊休農地解消のために草刈り管理をする者や、作付けをした農業者に支援金助成ができるシステムを検討されたい。

・特に中山間地域では小規模農家で高齢者が農地管理を担っています。大規模農家のみでなく小規模農家にも手厚い支援を検討されたい。

・農地の最適利用と高効率化を図るべく、農地中間管理機構等の事業を利用した土地改良（圃場整備）事業を促進されたい。

2 担い手農家や集落営農の育成と支援

農業従事者の高齢化が進み、離農が増え、担い手不足が深刻化している中、人材確保と育成は喫緊の課題です。また、年々深刻となる異常気象のもとで経営の厳しい農業から収益の安定した農業への転換が強く求められています。2025年度産の米価が高騰し、この状況が今後も安定すれば担い手が増える可能性はあります。そのためには既存の担い手や、就農希望者への手厚い支援と指導が必要です。

・農業スクールの継続と生徒の増員を図られたい。また、就農までの支援拡充と入校・就農しやすい条件を直接聞き取り、市の対応が困難な場合は国・県に対して働きかけられたい。

・集落営農組織化のため、市から未組織の地区へ働きかけや支援を行うとともに、県やJA等と連携し集落営農組織の法人化への指導支援強化を講じられたい。

・新規就農者を含む担い手や営農組合、認定農業者等にとどまらず、希望する農業者へも農業機械の更新やレンタルへの助成と高騰する肥料等農業資材の購入に対してさらなる支援を検討されたい。

3 農村を支える農政の推進

現在、地域において認定農業者を中心とした集落営農や、大規模農家などによる効率的な農業経営が進められていますが、兼業・小規模農家もまた地域の担い手として農地を守っていることを重視しなければなりません。しかし、高齢化や人手不足等により、年々深刻となってきている草刈りなどの農地の管理等も、限界にきています。

農村を支えるには、いかに離農させないか、継続できる支援が必要です。

・高温や豪雨など異常気象による農産物や農業機械への深刻な被害及び内水の排水処理対策に対して支援を検討されたい。また、渇水対応に必要な農業機械の購入やレンタルにさらなる支援の充実を検討されたい。

・自然条件に適合し、より高品質で安定した収量が見込める品種への転換・改良、生産技術の開発・普及を国・県に対して早急に働きかけられたい。

・労働力確保のため地域を越えた人的支援（農業関係人口等）の拡大を検討されたい。

4 有害鳥獣の被害防止対策の強化

鳥獣被害防止対策では、現在、地域での対応が限界を超えており、このままでは営農意欲の減退によって

遊休農地の拡大にも繋がりかねません。

・防護柵設置にかかる補助はありますが、設置後の維持・管理に関して、防護柵の資材等購入補助をより充実するとともに、防護柵の未設置地域については、設置を促進し、早期に市内全域で設置が完了するよう関係機関と連携した対策を講じられたい。

・近年、アナグマ、ヌートリア、アライグマ、ハクビシン等の中型獣による被害が多く発生しています。中型獣捕獲檻の貸し出し枠を増やし、捕獲報償費を増額されたい。

・年々増え続けるクマにより各地域では不安が広がっています。サルと同様にクマ被害への対策についても検討されたい。

5 環境にやさしい農業及び地産地消と食農教育の推進

豊岡市は、「有機農業実施計画」を策定し、地域ぐるみでの有機農業や環境創造型農業を推進するため「オーガニックビレッジ」を宣言しています。

・有機農家を増やし、オーガニック給食を進めていくならば、まず有機JAS認証の取得、継続検査の費用負担を軽減するための支援を是非とも検討されたい。

また、学校給食用米のすべてに有機米を使用し、有機野菜の利用を促進するため、有機農業実施計画の最終年を待つことなく、地元でも活用・消費できる持続可能な流通システムの構築に取り組まれたい。

・地元食材を知り、環境や水田の持つ意味合いを学び、食に携わる人たちを理解する事で、その食材を使った家庭料理（伝統食）や学校給食は子供たちの記憶に必ず残り、地域を支える後継者へと繋がるものと考えます。

心の健康の糧ともなる食農教育を学校生活の一環として様々な場面で取り入れられたい。

6 「地域計画」の実行・実現への支援

将来の農業・農村の設計図である「地域計画」は、2年前から集落単位で策定に取り組んできましたが、現耕作者の地図への落とし込みにとどまっている地域が多くあります。

実行・実現のためには、さらに地域の中で、認定農業者のほか、多様な農業者間での話し合いが必要です。

・圃場整備事業などの活用によって担い手への農地の集積・集約化が進められているが、準備5年・工事に5年と事業期間が長すぎるとの声があります。国・県とも協議し事業期間の短縮を図られたい。

・スマート農業の推進に向け、現地研修会の実施と機械購入などの支援を検討されたい。

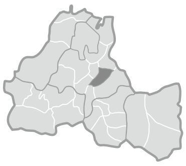
・有機農業を推進するため、オーガニックゾーンの設定を検討されたい。

・将来の設計図の実行・実現に取り組んでいる先進地区の状況等の情報提供に努められたい。

意見交換の模様

頑張ってます！農地利用最適化推進活動　No.22

新田地区（豊岡地域）



田中農業委員

松岡推進委員

新田地区は六方たんぼを中心に８つの集落があり、法人・個人の担い手などが、水稲（コウノトリ育むお米、無農薬、減農薬）を中心に大豆や麦を作付けしています。

六方たんぼに灌漑（かんがい）用水を供給しているのは新田井堰（いせき）土地改良区で、取水堰、導水路、供給パイプライン、ポンプ施設等を管理しています。

今年は梅雨明けからの渇水で導水路の水が低水位になり、思うように水の供給ができず多少の被害が出たところもありました。今後の水不足が心配です。

当地区では、百合地と河谷にコウノトリの巣塔があり、河谷巣塔では今年７月に３羽のヒナが巣立ちました。トラクターやコンバインで作業していると、コウノトリが昆虫や、は虫類を食べに近くまでやってきます。

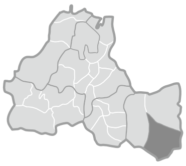
冬になると冬季湛水した水田にコハクチョウがやってきて、春はヒバリなどいろいろな野鳥が生息しています。

農業者の高齢化、担い手不足など今後の課題はいろいろありますが、自然豊かで美しい六方たんぼを守っていきたいです。

ほいたらね！

（推進委員　松岡　正人）

高橋地区（但東地域）



桑田農業委員

桒垣推進委員

私が担当する高橋地区は豊岡市の一番東に位置し、山間部の川沿いに農地が多くあり、15アール前後の圃場が多くある地域です。

また、未整備田が多く、山あいの圃場で法面が２メートル以上あるところも多くあり苦労されています。

しかしながら、この地域で稲作をされているのは熱心な方が多く、後継者不足の中で現状の農地を守っておられることに頭が下がる思いです。

昨年、「地域計画」について、どの地区でも今後の農業のあり方について協議・検討されました。高橋地区では一部農地の集積化ができたものの、今後の不安のほうが大きくなったように感じます。

近年、新規就農者が数人おられ、その方たちに託されている地区もありますが、今しばらくは現状維持のように感じています。

私の勤めている会社では、農作業を受託している関係上、地域の方たちと接する機会が多くあり、推進委員になってからも皆さんと気さくに話をさせていただいています。

以前は「栽培」や「機械の操作」について聞かれる方が少なかったのですが、最近は世代が変わったからか、色々な質問をいただくことが多くなりました。

「よりおいしいお米を」「よりたくさんのお米を」は生産者の基本的な願望ですが、そういった話を多く聞くようになりました。

先行き不安な時勢ですが、精一杯頑張ってみようと思っている方たちがおられることも事実です。

そんな方たちに、少しでもお役に立てればと思っています。

（推進委員　桒垣　一夫）

きばっとんなる人らぁ57

このコーナーでは、
地域で頑張るみなさんを紹介します。

「但馬牛繁殖肥育一貫経営を目指して」

旗谷　好将さん（出石町暮坂）

旗谷さんのお家は、祖父の代から牛に携わり、父親も現役で牛を飼育しておられます。最近では、50頭規模の牛舎を増設し、親牛62頭を飼っておられます。牛に与える牧草飼料は100％自家産を目指し、こだわりの飼育に励んでおられます。

農業とは関係のない大学を卒業し、公務員希望だったそうですが、実家が牛を飼っており、いつしか牛に興味が出てきたそうです。

豊岡市の農業スクールに入校し、将来の自営を目指して兵庫県の中でも１・２を争う規模の畜産農家へ研修に行き、畜産仲間の若者グループのリーダーを務めるなど、意欲的に畜産経営を学ばれています。

但馬牛は、兵庫県産の牛（特に旧美方郡産の牛）だけがメインで改良された経緯があり、その中の系統牛がもてはやされた結果、血縁関係も高くなり、病気などで飼いにくい牛が増えてきました。

そんな中、旗谷さんは数少ない城崎系や出石・但東系統の牛を導入され、対応されています。但馬牛の資源として母方の系統はとても大切で、高く売れるものだけ飼えばいいと考える方がほとんどですが、先を見越して取り組んでおられます。

将来は繁殖だけでなく肥育も行い、一貫経営を目指したいとのことです。

牛飼いは大変なことが多いですが、奥が深く、それゆえに面白く、続けていけるのだと思います。

（推進委員　谷口　正徳）

「只今、奮闘中‼」

寺内　信康さん（出石町袴狭）

寺内さんは、建設業を経て有限会社坂本農事から株式会社アシスト産業代表になられ、4年目になりました。

経営規模は、水稲10ヘクタール、ブドウ25アール、施設野菜30アール（9棟）、露地野菜35アールの多角経営を奥様と2人でされています。

春から秋は水稲・ブドウを、秋から冬は施設野菜・露地野菜を作期分散しながら、農産物販売会社などへ出荷されています。

ブドウ栽培1年目は栽培方法が分からず苦労しましたが、収穫期にはJAぶどう部会の先輩方や、普及員の方にでき映えを褒められ、とても嬉しく努力が報われた瞬間でした。「何かと苦労は絶えませんが、頑張れば頑張っただけ見返りが多くあり、収穫の時期が一番楽しく仕事ができています」と話されていました。

また近年、ブドウがアライグマ・ハクビシンなどの被害に遭い、調査・勉強会を重ねた結果、兵庫県森林動物研究センター協力のもと、中型獣用電気柵を試験導入され、「今のところ完璧に抑えています」とのことです。

近頃、農家の方から「これからは君たちの時代やから応援してるで！」「分からんことがあったら何でも聞いて！」と声を掛けられるそうです。

今、奥様とタッグを組んで奮闘中ですが、人員を増やしてより充実した農業経営を目指しておられます。

（農業委員　尾藤　光）

神鍋大根

日高地域の『西気明日のいしずえ会』は「人と自然と。未来へつなげる故郷づくり」を目的とした組織です。

地区の活性化を目指し、大根を栽培して販売する「神鍋大根プロジェクト」を、地域の皆さんや「さとまちガイドラボのボランティア」の皆さんと、11年前から実施されています。

大根プロジェクト担当のむらづくり部・田中秀長部長は「種まき経験を通じて、食に携わる人たちへの理解と未来の後継者にも繋がってほしいと思います。11年前の子供達は大学生か社会人になって活躍していることでしょう。幼い時に体験した種まきのことや収穫のこと、更には食べたことを思い出す時があると思います。その思い出が食農教育に繋がっていくと思います。また、収穫した野菜は給食に使用してもらい『地産地消』として新たな広がりが始まっています」と熱く語っておられました。

粟栖野の大根農園で、地域の小学生や園児を交えて種まきを行った「総太り」と「冬どり丸」は、神鍋特有の寒暖差と神鍋火山の黒ぼくの土で育ち、特産品の「神鍋大根」として、毎年、道の駅「神鍋高原」で開催されるマロニエまつりで販売されています。

（農業委員　鳥尾　勝）

但馬牛

昭和40年以前、農家では農耕用牛として1家に1頭くらい、家族同様に牛が飼育されていました。

しかし現在、農業の機械化が進み、牛農家の経営形態も、農耕用牛から、肉用牛として飼育されている繁殖経営へと変わっていきました。

昭和47年には県内13の改良組合が設立され、認定基準が定められました。

現在は8組合、兵庫県として他県からの血を入れない閉鎖育種を行い、但馬牛としての血統の純粋性を維持しています。これが他県産ブランドとの差別化につながり、令和5年、但馬牛は飼育管理システムと共に世界農業遺産に認定されました。

先人の努力の結晶が、現在の『但馬牛ブランド』となっています。

引き続き年一産に努め、ブランド力と品質の向上を図ります。

地場産業安定のため、新規就農者、および、後継者を求めます。

食の一歩を！

農業に光を！

（推進委員　北村　幸弘）

農業者年金で安心・豊かな老後を

～農業者の老後は国民年金だけでは不安です～

◎農業に従事する方の老後の安心に役立ちます。

国民年金　＋　農業者年金

◎こんな方が**加入できます。**

①国民年金第１号被保険者

②年間６０日以上農業に従事

③２０歳以上６５歳未満の方※

※60 歳以上 65 歳未満の方は国民年金任意加入被保険者に限ります。

◎**積立方式**だから自分がかけた金額は年金として**生涯もらえます。**（仮に８０歳前に亡くなった場合でも、死亡一時金が遺族に支給されます。）

◎保険料は **いつでも変更** できます。

月々２万円※から６万７千円まで
※政策支援（以下参照）の対象とならない方は１万円

◎支払った保険料は全額社会保険料控除となり、所得税や住民税等の**節税** になります。

◎**政策支援**（保険料の国庫補助）が受けられます。

例：認定農業者等で青色申告者で３５歳未満の人は 10,000 円（5 割）補助

問い合わせ先　　豊岡市農業委員会　TEL.0796-21-9021
最寄りのJAの農業者年金担当

独立行政法人農業者年金基金
専門相談員　TEL.03-5919-0371
企画調整室　TEL.03-5919-0332

とよおか農委だより 12
発行日／令和7年(2025)12月1日(年間3回発行)
通巻62号

表紙について　出石神社　（出石町宮内）

地元では「いっきゅうさん」と呼び親しまれている出石神社。

御祭神は、八種類の神宝である伊豆志八前大神《いずしやまえのおおかみ》と神羅の王子天日槍命《あめのひぼこのみこと》。現存する最古の歴史書である『古事記』や『日本書紀』に登場します。

昔の但馬は泥水で覆われていました。天日槍命は円山川の河口に流れをせき止めていた岩を見つけ、所持していた剣で切り刻んで取り除き、泥水を日本海に流して但馬の平野をつくられたのでした。

天日槍命が岩を取りのぞき、意気揚々として神社のある宮内へ帰るときの様子を今に伝えているお祭りが「幟（のぼり）まわし」です。端午の節句に行われています。

但馬国の一宮にも位置づけられ、但馬地方では代表的な古社の鳥居も長年の雨風により腐食が著しくなり補修が検討されていました。

大杉の切株

多くの方々の御尽力・御協力をいただき、昨年、鳥居が「根継ぎ」（柱の下部の腐った所を新しい材に取り換えて補強する）工法で修復されました。

また、鳥居の補修工事と同時に鳥居横の大杉は倒木の恐れがあったため伐採されました。

樹齢260年、樹高は約30メートルの大きな杉の木でした。　（農業委員　川﨑　重雄）

全国農業新聞
NATIONAL AGRICULTURAL NEWS
全国農業新聞を購読してみませんか!
農業の最新情報を提供
週刊（毎週金曜日発行）月700円
（送料、消費税込）
＊お申し込みは
農業委員会事務局または、
地元の農業委員・推進委員
まで

編集後記

現在、米の需給バランスの崩れから米価が高騰し、米の適正価格を巡り論議をかもしだしています。政府が米政策を減反から増産へ大幅な方向転換を表明した結果、令和7年度産は需要をはるかに上回る生産量となりました。

増産体制が続けば、今度は暴落の危険性が危惧されます。難しいとは思いますが、生産者は需給バランスを見据えた売れるブランド米等を生産する必要があります。

肥料・機械等、農業資材の高騰が続くなか、生産者米価の基準となる全国JAの概算金価格提示も一昨年と比較し大幅に高くなり、米生産者はやっと持続可能な農業が見通せるとの声を聴きます。

消費者も、ブランド米・普通米・ブレンド米・輸入米・備蓄米等多種多様なニーズに合った選択肢も拡がりました。

生産者・消費者共に、価格の共有ができるようになればと思うところです。

近年の異常気象が頻発するなかで、農業・農村は、地球環境を正常化するための多面的機能を有していることを皆さんが理解して、農地利用最適化の推進と耕作放棄地解消の協力体制を構築する必要があります。

終わりになりましたが、本紙発行にご協力いただいた方々へ感謝申し上げます。（編集委員長　井谷　勝彦）

農委だより第62号は私たちが担当しました。

後列左から　田中委員、尾藤委員、北村委員、鳥尾委員、川﨑委員
前列左から　平野委員、平峰委員、井谷委員、谷口委員

編集発行／豊岡市農業委員会
〒668-8666 兵庫県豊岡市中央町2番4号　豊岡市役所本庁舎2階
☎0796-21-9021　FAX0796-24-8114

VEGETABLE OIL INK 環境に優しいベジタブルインキで印刷しています。

本紙掲載の写真・イメージフォト・イラストは許諾を得て掲載しており、無断転載を禁じます。